

■眼科

白内障手術時の眼内レンズの選び方について

【眼内レンズの選択は、目の状態、本人の希望、ライフスタイル等により決まる】

Q 2 白内障手術時の眼内レンズ(intraocular lens:IOL)の選び方についてご教示下さい。

杉浦眼科・杉浦 毅先生にご解説をお願いします。

【質問者】

辻 英貴 がん研有明病院眼科部長

A 2 IOLは、現在単焦点IOLと多焦点IOLに大別されます。単焦点IOLは、焦点が1つのIOLで、1949年に初めて人眼に挿入されて以降70年以上の歴史があります。一方、多焦点IOLは、20年ほど前に開発され、遠方、近方の2つに焦点の合う2焦点レンズと、遠方、中間距離、近方の3つに焦点の合う3焦点レンズにわけられます。多焦点IOLは、この10年ぐらいで広く使われるようになりました。単焦点IOLを用いた白内障手術は、IOL費用も含めて保険で賄えますが、多焦点IOLを用いた白内障手術は、IOLの購入費用を患者が支払う選定療養になります。

これらのレンズの選び方は、白内障手術を受ける方の目の状態と屈折度、本人の希望、ライフスタイル、経済的要因により異なります。

若い頃から眼鏡を掛けていて眼鏡が苦にならない方、目に糖尿病網膜症、緑内障などの疾患があり重篤な状態で網膜の光の感度が減少している方、経済的負担を少なくしたい方などには、単焦点IOLをお勧めします。また、少しのブレもなくはっきりと焦点の合った像を求める方にも単焦点IOLをお勧めします。多焦点IOLでは、遠方から

近方まで焦点が合うと言っても、目に入る光を遠方、中間距離、近方に分散させるため、目に入る光の100%が1つの焦点に合う単焦点IOLでの像の見え方にはおよびません。このため、細かい点にこだわりを持たれる方には単焦点IOLをお勧めします。

多焦点IOLの最大の利点は、遠方から近方まで全視野である程度焦点の合った像が見える点です。遠近両用眼鏡のように、近方は下目使いをしなくては見えないという欠点はありませんが、眼鏡が必要ないわけではありません。どんなに高精度の検査をしてIOLの度数を選んでも、チン小帯の強度、水晶体嚢の収縮度合い、検査誤差、IOLの度数誤差などにより、術後軽度の遠視化または近視化を生じます。このため、多焦点IOLでも、ある程度眼鏡が必要になります。

ある程度のレベルで遠方から近方まで見たいという方には、多焦点IOLはお勧めです。また、多焦点IOLは回折格子により光を遠方、中間距離、近方に振りわけするため、光の散乱が避けられません。このため、夜の運転では対向車のヘッドライトが散乱して見えるので、夜の運転が多いライフスタイルの方は要注意です。しかし、最近この欠点を減少するように回折格子を改良した多焦点IOLも開発されてきています。

患者の要求度とライフスタイルに合ったIOLを選択することが重要と考えます。

【回答者】

杉浦 毅 杉浦眼科院長